

中央博サークル地学同好会

長 嶺 勝

千葉県立中央博物館が開館30周年を迎えられるとのこと、誠におめでとうございます。友の会時代からの歴代の幹事の方々のご努力下、地学同好会は会員数が50名を超える人気のサークルとなりました。地学同好会では地学科諸先生にご協力いただき、年二回ほどイベントを企画して活動をしています。

思い出されるのが、昨年度行われた鋸南町での化石採集です。家族連れ会員も参加され、大変にぎやかな会となりました。ここではサメの歯、貝、サンゴ、哺乳類の化石等が採集でき、多くの参加者にとって有意義な会となりました。もう帰り支度をはじめている時に会員の1人がよろけて思わず手をついた近くに、大きなメガロドンの歯が地中に埋まっているのを見つけました。結果的に、これがその日1番の化石でした。

このように何かの偶然で化石が見つかる事があります。私はそこに化石と発見者の縁を感じ、化石採集は縁の採集でないかと思っています。化石になるには色々な条件が重なり、さらに途方もない長い時間を重ね初めて化石になります。大部分の化石は地中に埋もれ、我々の目にふれることはありません。それが自然現象、人的な行為で初めて地表近くに出てきます。地表に出てしまうと後は風化するだけで、土に戻っていきます。



鋸南町の化石採集参加者(上)と会員が見つけたメガロドンの歯(下)

印旛沼周辺での化石採集会では、千葉県の誇る木下

貝層を訪れて貝層のでき方を先生から学び、実際に貝化石を採集しました。このように地学同好会の行事は化石や地層について知識が深まると同時に、実際に化石の採集もできると言う点で、我々のようなアマチュアにとっては非常に嬉しいものです。



天然記念物の木下貝層(上)と木下層の化石採集(下)

地学同好会では県内だけでなく県外にも行きます。これまでに、茨城県自然博物館や埼玉の秩父ジオパークで、見学や化石採集会を行いました。

もう一つの活動の柱として、同好会有志によるボランティア活動を行い、色々な地学のイベントに参加したお友達をサポートしたり、中央博の先生達の活動のお手伝いをしています。私はこのような経験が、我々の財産となり活力となると信じて疑いません。そして、こういう活動に参加した子供達の経験が、彼らの将来の夢を育んでいくと考えます。

その意味で、博物館の存在は彼らの経験と実証の場として、とても重要ではないでしょうか。これからも40年、50年と県民に寄り添う博物館であって欲しいと願っています。そのために地学同好会としても微力ながらお手伝いできれば幸いです。最後に地学と言うと地味なイメージがありますが、過去を知り未来に活かすことが出来れば素晴らしい事だと思います。

(地学同好会幹事)